

【生薬名】麻黄 *EPHEDRAE HERBA*

【起源植物】シナマオウ *Ephedra sinica*



【科名】マオウ科Ephedraceae、

【別名】麻黄一名龍沙

【薬用部分】地上部

【主成分】アルカロイド（エフェドリン、プソイドエフェドリン）

【薬性】気味は辛微苦温、帰経は肺膀胱に属す

【効能】●発汗解表・宣肺平喘・利水

●平喘・鎮咳には杏仁を配合する。肺熱、肺寒いずれにも応用される。長服により効力が激減するので慢性病に用いる場合には間歇的に使用する。

●発汗作用は桂枝と共に用いると作用が増強する

●発汗利尿作用により水腫を軽減する、朮を配合するとよい

●風湿による関節痛に用いる、麻杏薏甘湯

●発汗、解熱、気管支平滑筋弛緩、利尿、昇圧作用がある

●鎮咳、抗炎症、交感神経興奮作用、中枢興奮作用

【出典】●治中風傷寒頭痛。温瘧。發表出汗。去邪熱氣。止欬逆上氣。除寒熱。破癥堅積聚。（神農本草經中品）

●麻黄 味辛、表を解し、汗を出し、身熱頭疼、風寒を發散す。（薬性歌）

●主治喘咳水氣。旁治惡風惡寒、無汗、身疼骨節疼痛、一身黃腫。（薬徴）

【備考】●麻黄剤は胃もたれを起こす事がある

●多量服用により大脳皮質を興奮させ不眠を引き起こす事がある

●節部は止汗作用があるといわれる、去節するのが望ましい

●民間薬的に単味で使う事はほとんど無い

【処方例】●麻黄湯、越婢加半夏湯、麻杏甘石湯、神秘湯、続命湯、